

### 13. 筋骨格系および結合組織の疾患 (M5422)

#### 文献

Nakajima M, Inoue M, Itoi M, et al. Difference in clinical effect between deep and superficial acupuncture needle insertion for neck-shoulder pain: a randomized controlled clinical trial pilot study. *日本温泉気候物理医学会雑誌* 2015; 78(3): 216-227. 医中誌 Web ID: 2016061226

#### 1. 目的

頰肩部痛に対するより効果的な鍼治療方法を探索するため、鍼の浅刺と深刺の臨床効果を比較検討。

#### 2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

#### 3. セッティング

明治国際医療大学整形外科診療、京都、日本

#### 4. 参加者

頰椎変性疾患に由来する慢性 (少なくとも 6 ヶ月) の頰肩部痛を有する患者 20 名。

#### 5. 介入

Arm 1: 浅刺群 10 名 (男性 2、女性 8) 5 mm 以内の刺入

Arm 2: 深刺群 10 名 (男性 3、女性 7) 15~20 mm の刺入

刺鍼深度以外の治療方法は両群ともすべて同様で、頰肩部の最も痛む部位を最大 10 カ所まで選択して刺鍼。40 mm 2 号ステンレス鍼で 2Hz・20 秒の雀啄術の後に抜鍼。意図的な得気の誘発はせず。週 1 回で 4 週間実施。

#### 6. 主な評価項目

主要アウトカムは治療前後と治療終了 4 週後の頰肩部痛に関する Visual Analogue Scale (VAS)。副次アウトカムは治療期間前、治療終了時、治療終了 4 週後の Neck Disability Index (NDI) 日本語版。評価者ブラインド。

#### 7. 主な結果

浅刺群 (平均 67.2 歳±12.8(SD))、深刺群 (平均 68.7 歳±13.1(SD)) とともに脱落者なし。VAS および NDI の初期値に群間の不均等なし。初回治療時、刺入時痛に群間差なかったが、“needling sensation”を感じた患者は深刺群のほうが有意に多かった (浅刺群 3 名 vs. 深刺群 10 名、 $P<0.05$ )。直後の VAS は両群とも有意に改善したが群間差はなかった。VAS と NDI の経時変化パターンは群間に交互作用を認め、深刺群で有意な改善を示した。治療期間前と治療終了 4 週後の VAS 変化量 (改善度) は深刺群が有意に大きかった (浅刺群平均 51.5 vs. 深刺群平均 74.2、 $P<0.05$ )。

#### 8. 結論・意義

頰肩部痛の患者の自覚的痛み部位に鍼治療を行う場合には、深刺のほうがより効果的な可能性がある。

#### 9. 鍼灸医学的言及

“needling sensation”が「得気」であるか詳細は不明だが、この感覚が深刺群により良好な効果をもたらした要因である可能性がある。

#### 10. 論文中の安全性評価

症状悪化や治療に関連する有害事象は両群ともに確認されなかった。

#### 11. Abstractor のコメント

この RCT のように「どのような鍼灸技法がより有効か」という疑問に答える臨床試験は未だ少なく貴重であり、鍼灸臨床上有用である。持続効果・反復治療効果については、有意差がなかった指標についても深刺群の優位性が目立っていたので、サンプルサイズが大きければ有意差が出たであろう。今後このような鍼灸師に有用な情報を与えてくれる RCT が、部位・病態別に多く実施され情報提供されることが望まれる。

#### 12. Abstractor and date

山下 仁 2022.3.6 (要約およびコメント執筆にあたって以下の学会抄録を参照した: 中島美和ほか. *日本温泉気候物理医学会雑誌* 2014;78(1):66-67)